

南加日系合唱連盟小史

～創立7年を振り返って～

始めに：

南加日系合唱連盟も昨年秋に創立7年が経過しました。そろそろ連盟の設立経緯とその後の活動を記録に留めておく時期と思い、以下に纏めてみました。この小史を通じて、連盟員の皆さん一人ひとりが、今後の連盟の有り方に、思いを巡らせていただければ幸いです。本文中の一部は敬称を略させていただきます。

(1) 連盟設立前の南加日系合唱界 ～2000年を中心として～

主としてロサンゼルス郡とオレンジ郡を中心とする南加日系コーラス界には、2000年当時、約10のグループが活動していた。構成メンバーにより、それらは「永住者中心」、「駐在員家族中心」それに「教会聖歌隊中心」と3つに分類することが出来る。

これらの団体が一堂に会して演奏会を開催するという事は過去には一度も無く、各コーラスグループにとっては、一つの願いであった。ところが2000年にその念願が実現した。

2000年 二世週祭コーラルフェスティバル：

2000年に行われた第60回二世週祭の一環としてのコーラルフェスティバルが、LAダウンタウンの日米劇場で7月9日に開催された。

2000年という区切りの年と、二世週祭60周年という記念すべき年を迎えた機会をとらえ、当時複数の合唱団の指導をしていた発案者である波多江美代子が、「コーラス森の会」の古川千鶴子代表の賛同を得て、各合唱団に話を持ちかけ、早速コンサート実現に向けて動き出した。

「さくらコーラス」は、組織が一丸となって二世週日本祭実行委員会、日米劇場との交渉事にあたり、さらにプログラムの作成から演奏会の会計業務もこなして、初めてのコーラルフェスティバル開催を成功に導いた。

参加団体：さくらコーラス、ゆうかりコーラス、LAメンズグリークラブ、
フローラルハーモニー、ダイヤモンドコーラス、コーラス森の会、
および合同曲への個人参加者10名 参加者計135名、

合同曲：「花」（すべての人の心に花を）「青葉の歌」

入場ドネーション： \$10

「コーラス森の会」より分かれて、2年前の1998年に設立された女声合唱団「コスモス」は独自の舞台を持たずに、合同曲の演奏へ個人資格で参加した。また「コスモス」より一年遅れて結成された「LAメンズグリークラブ」は、自分達の舞台を用意して参加し、プログラムに一層の厚みを増した。なお、その後行われた連盟の合唱祭では、必ず合同合唱の舞台を用意して、広く一般から個人の参加者を募り、合唱祭の門戸を開放している。

二世週祭の幕開け行事として行われたこの歌の祭典は、大成功のうちに終了した。入場券は売り切れ満席で入場できない人も居たほどであった。始めて合唱の大舞台に立った出演者も「合同曲を多くの人と一緒に歌って感激した」などの感想が述べられた。

羅府新報に「音楽の散歩道」というコラムを持つ小川弘子現会長も、演奏会終了後の7月15日、紙面に次のような感想を掲載した。その後の南加日系合唱界の動向を予測する含蓄ある内容なので、ここに一部を紹介する。

「——前略—— 私もひとつの団体のピアノ伴奏者として参加したのですが、歌い終わった参加者の晴れがましくすがすがしい顔、そして『私のようなものにもこんな舞台で歌えるチャンスを与えてくださって感謝しています』という言葉がとても印象的でした。——略—— 初めての試みとして行われたこのフェスティバル、全体として、また各合唱団として反省点が出てくるかもしれませんが、それらを生かして是非今後も続けて欲しいと思います。一人でも多くの人が合唱の楽しさを味わえるためにも、各合唱団がお互いに切磋琢磨する場を持つためにも、二回目、三回目と続いていくことを期待します。」

(2) 連盟設立の経緯 ～2005年～

2000年から2004年にわたる5年間の南加日系合唱界は、それぞれ独自に演奏会を開いたり、歌を通じて地域社会への貢献などに専念した。

2005年 二世週祭コーラルフェスティバル：

2005年の二世週祭を迎えるに当たって、再びコーラルフェスティバルを開催しようとの機運が、波多江美代子、小川弘子、嶺井猛、寺村政弘などの間で盛り上がった。

早速、Nisei Week Choral Federation (NWCF)を暫定グループ名として、その準備活動を開始。

第一回準備委員会が、オーパスミュージックにおいて2004年12月5日に開かれ、具体的な準備のための組織作りが行われた。

代表：波多江美代子、副代表：寺村正弘、運営委員長：嶺井猛

2005年1月9日に開かれた第2回準備委員会の名称を運営委員会と格上げして、本格的な準備作業を開始した。

参加団体：さくらコーラス、ゆうかりコーラス、LA メンズグリークラブ、
フローラルハーモニー、アンサンブルエコー、ダイヤモンドコーラス、
森の会、コスモス

2005年3月6日に開かれた第2回運営委員会において、二世週祭のための活動団体名を、正式に南加日系合唱連盟（Nikkei Choral Federation of Southern California）と決定した。

2005年8月6日二世週祭コーラルフェスティバル（第2回）が日米劇場で開催された。

演奏会テーマは特に設定しなかったが、プログラムの中で波多江美代子代表は次のように挨拶した。

「歌のハーモニーが人々のこころのハーモニーとなって、世界の調和につながる事を願ってやみません」

入場ドネーション \$10。

参加団体は上記記載の通り。

特別参加：初芝パープルエコー

この演奏会には、大阪堺から「初芝パープルエコー」の津井田新一代表以下20名参加し、「お江戸日本橋」など懐かしい日本の曲を披露した。

合同曲：個人参加者を含めた合同合唱は「Sanctus」「時代」の2曲。

コーラルフェスティバル終了後の9月25日に開催されたNWCF第8回運営委員会において、正式に南加日系合唱連盟（Nikkei Choral Federation of Southern California）の発足が承認された。

初代会長 波多江美代子、副会長 新田邦子、事務局長 嶺井猛。

（3）2006年活動

2006年は合唱連盟が前年に設立されてから、実質的に組織を固め、その活動を開始した年として位置づけられる。

合唱連盟は、その会則・細則を定め、Non Profit Association（NPA）資格を取得した上“開かれた合唱連盟”をモットーに活動を開始した。ただし、入会資格は団体のみとして、個人資格の会員は扱っていない。

第1回理事会が1月15日に召集された。参加団体は次の通り。

コスモス、さくらコーラス、ダイヤモンドコーラス、LA メンズグリー、
ゆうかりコーラス、アンサンブルエコー（委任状）、森の会（欠席通知）

日系ヘルプラインへの寄付：

前年の二世週祭コーラルフェスティバルにおいて生じた余剰金\$ 1509ドルを、日系ヘルプラインに寄付した。

また、日系ヘルプラインには、4月30日日米文化会館で開催された支援の会発会式に、連盟有志（LA メンズグリー、コスモス）として参加し、合唱による支援を行った。

「北カリフォルニア日本合唱連盟合唱祭」に参加：

北カリフォルニア日本合唱連盟（サンフランシスコ）の呼びかけにより、サンフランシスコの Koret Auditorium in SF Public Library で6月3日に開かれた第一回合唱祭の合同曲演奏に、合唱連盟有志が参加した。家族関係を含めて、ロサンゼルスからの参加者数は44名。また、地元サンフランシスコからは、男声合唱団コーラルメイをはじめとして6団体がプログラムに名前を連ねた。プログラムの中で“南北合唱連盟合同演奏”と称して、合同曲「まちぼうけ」「川の流れるように」「大地讃頌」の3曲を演奏。

なお、この演奏会への参加は、嶺井猛、棚野泰全両氏の尽力により実現した。

この年には、連盟主催の演奏会を2008年4月を目処に開催することを決定した。さらに将来計画として、「第九演奏会」を開催したい旨の意見が理事会において話し合われた。

また、連盟のロゴマーク決定についても提案されたが、実現に至らなかった。

（4）2007年活動

この年は、翌2008年開催の連盟主催合唱祭への準備の年となった。合唱祭の資金集めのためのオークション実施、連盟外からの参加団体の掘り起こし、児童合唱団候補の絞込み、予定した演奏会場の変更など、多くの懸案をこなし、フル回転の一年間であった。

年初の理事会において、連盟愛唱歌の策定や翌年の合唱祭に日本から大中恩夫妻の招待などが話し合われたが、結果的には実現しなかった。

2008年の演奏会を連盟主催による第3回合唱祭と位置づけ、メインテーマを「この歌声を次の世代へ」と決定した。

（5）2008年活動

新しく古川千鶴子が会長として選任され、6月開催予定の第3回合唱祭に向けて、本格的に活動が開始された。副会長 新田邦子。

第3回合唱祭開催： テーマ「この歌声を次の世代へ」

6月15日連盟独自としては初めての、第3回合唱祭が El Camino 大学で開催された。

第3回と位置づけた理由は、2000年のコーラルフェスティバルを第1回、2005年を第2回とカウントしたことによる。この2つの合唱祭はともに、二世週祭の傘下で行われた演奏会であった。

合唱祭への参加団体は以下の通り：

コスモス、
LA メンズグリー、
森の会、
さくらコーラス、
グレースノート、
コーラルアーツ、
ゆうかりコーラス

特別参加として、合唱祭テーマに合わせて、「西大和学園カリフォルニア校」の横田佳代先生引率・指揮のもとに生徒35名が出演した。さらに北カリフォルニア日本合唱連盟より、三浦るり子さん率いる有志アンサンブルが参加した。個人参加者を募り、合同曲の舞台に出演した。「大地讃頌」「風になれば」「ふるさとの四季」

出演者を含めた入場者数は1300名に達し成功裡に終わったが、実施に当たっては、関係団体が多く、大変苦労した演奏会であった。

入場料も当初の\$10から、演奏会場の変更と駐車料を含まない料金体系に変えて、\$5に改正した。合唱祭の収支は\$2421の黒字決算となった。

(6) 2009年活動

年の初めに「カペラオーパス」が新たに連盟に加入し、「ゆうかりコーラス」が脱退した。

この年は、ベートーベンの第九演奏会を、LA ダウンタウンのディズニーコンサートホールで開いた年である。連盟も後援の形で参加し、主催者 南カリフォルニア日系企業協会 (JBA) を全面的に支援し、演奏会を成功に導いた。

JBA 会長であり、また LA メンズグリークラブのメンバーであった鈴木康が「合唱」運営委員長として実現に向けて活躍された。

下記の URL は鈴木康義氏によるベートーベンの第九演奏会の感想文です。

<http://www.NikkeiChorus.org/PDFfile/minihistory/daiku.pdf>

ベートーベン「第九」演奏会：

日時：2009年7月10日

場所：ウォールトディズニーコンサートホール

指揮者：David Benoit

オーケストラ：Asia America Symphony Orchestra

独唱：竹下圭子、Silvia Vasquez、成田勝美、Jinyoung Jang

コーラス：第九合唱団（連盟加盟合唱団その他計380名）

特筆すべきことは、この「第九」演奏会を契機として、ロサンゼルス近郊に新たに合唱愛好家によるグループ、「LA 第九を歌う会」「Orange County Friendship Choir」などが立ち上がり、その後も活発に演奏会活動を続けていることである。また演奏会のテーマであった「Bridging USA and Japan」の精神も、日系合唱界に根を下ろし、その精神に沿った日米交流の催しが続いている。その意味において、この「第九」演奏会は南加の日系合唱界の歴史に大きな位置付けが与えられ、関係者に末永く想起されよう。

マンザナバス旅行：

9月5、6の両日、連盟主催によるバス旅行が実施され、連盟員の家族友人を含めた約60名が参加。当時の在ロサンゼルス日本国総領事伊原純一ご夫妻とご息もプライベートに参加された。

第二次世界大戦中、日系人が収容されたマンザナ日系人収容所を訪れ、シエラネバダ山系を背にして立つ慰霊塔に向かって、「America the Beautiful」「荒城の月」を献納するなど感動的で有意義なひと時を過ごした。また、実際にこのキャンプ生活を経験したジョン波多江氏が、ご自身の体験を振り返り感慨を込めてスピーチされた。

(7) 2010年活動

会長には元会長の波多江美代子が、副会長には小川弘子が選任された。

「咸臨丸遣米使節入港150周年記念日米合唱祭」：

4月9日、北カリフォルニア日本合唱連盟の呼びかけにより、合唱連盟より家族関係者を含め45名がバスをチャーターしてサンフランシスコに行き、その日に開催された「北加さくら祭り」主催の日米合同合唱祭に参加した。

出演は合同曲「君うたえよ」「鳥が」「夕焼け小焼け」。

演奏会場は、第二次大戦後の1945年に国連憲章作成会議の場となった由緒ある War Memorial, Herbst Theatre。

この合唱祭には日本からも小田原男声合唱団、葛飾区民合唱団、世田谷区民合唱団、千代田レディース、板橋混声合唱団が参加した。指揮は外山浩爾氏。

なお、翌4月10日は、ホテルチェックアウトの後、ナパバレーワイナリー巡りで、参加者一同カリフォルニアワインを存分に楽しんだ。

West LA United Methodist Church 新会堂落成記念コンサート :

4月18日、森の会、カペラオーパス、メンズグリーが中心となって、WLAUMCの新会堂落成記念コンサートに出演した。

セドナバス旅行 :

10月9、10日の両日、連盟主催のセドナバス旅行に、家族など関係者を含めて29名が参加した。

(8) 2011年活動

この年3月11日、東日本大震災が発生し、東北地方を中心に未曾有の災害にみまわれた。アメリカ始め全世界から、いち早く支援活動の手が差し伸べられ、一部合唱連盟関係者、またその家族も緊急支援のため、東日本の災害現場に駆けつけた。

さらに、4月9日にLAダウンタウンのロサンゼルス合同キリスト教会で急遽開催された復興チャリティーコンサートに出演し、連盟加盟団体から集められた義捐金\$4066を、コンサート主宰者を通じ日本国総領事館へ託した。

第4回合唱祭 : テーマ「響け うたごえ」

この年9月17日、エルカミノ大学に於いて第4回合唱祭を開催した。東日本大震災のため、予定していた福島県の「郡山男声合唱団」(佐藤文吉団長)の参加が危ぶまれたが、万難を排して当初の予定通り合唱祭に参加。普段と変わらぬ男声合唱の重厚な歌声を力強く披露した。その陰で、LAメンズグリー一太田勉氏による郡山男声合唱団との間の緊密な連絡維持と、さらに親身になって激励されたことが実現への大きな後押しとなった。

下記のURLは佐藤文吉団長による郡山男声合唱団の第4回合唱祭参加についての感想文です。

<http://www.NikkeiChorus.org/PDFfile/minihistory/bunkichisato.pdf>

また、一般から募集した個人参加者、北加日本合唱連盟の賀川正人氏も合同曲演奏に出演した。

入場ドネーション料金は駐車場料込みの\$8。個人参加費は\$30であった。合同曲「America, the Beautiful」「きみ歌えよ」「Sancta Maria, Mater Dei」

参加団体 :

さくらコーラス

森の会

コスモス

LAメンズグリークラブ

カペラオーパス

個人参加者 27名

北カリフォルニア日本合唱連盟 賀川正人氏

特別参加 郡山男声合唱団「呑歌楽（どんからっく）」

この合唱祭において、連盟関係者、来場者から募った震災義捐金は\$5269にのぼり、郡山男声合唱団を通じ全額を郡山市に寄付した。

演奏会前には会計収支の赤字が危惧され、対処方法などを理事会幹部により事前に検討されたが、結果として東日本へ寄付を出来るほどの黒字に終わり、関係者一同の安堵感は計り知れないものがあった。

合唱祭終了後10月30日に開催された理事会において、波多江会長より早速次の演奏会構想が提案され、連盟として積極的に協力することが決まった。

これが翌2012年夏、二世週祭の一環として開催された「f c t 郡山少年少女合唱団」を日本から招いての演奏会である。

(9) 2012年活動

役員改選の年に当たり、前期の副会長職にあった小川弘子が新会長に選任された。副会長 斎藤泰 事務局長 嶺井猛。

この年の主イベントは、夏の二世週祭に合わせて福島からやってきた、郡山少年少女合唱団の演奏会である。公演実現のきっかけは、前年の合唱祭に日本から出演した郡山男声合唱団との縁で始まった。具体的には、郡山の成田欽家先生から波多江美代子会長へのアプローチである。

このイベントの賛同者であるセンテナリー合同メソジスト教会のマーク中川主任牧師は、二世週日本祭実行委員長であったため、少年少女合唱団を翌年の二世週祭りに招待する旨の書状を郡山に送付した。

先方の受諾を契機に、早速、少人数による実行委員会を立ち上げ準備作業を開始。実行委員会にはセンテナリー合同メソジスト教会久山康彦牧師と連盟側から小川弘子会長、嶺井猛、太田勉、斎藤泰が参加した。

演奏会が近づくにつれて、実行委員会での話し合いをベースにして、合唱連盟の全組織がフル活動して8月11日の演奏会に備えた。

「フクシマから ありがとう！」コンサート：

コンサートの前日8月10日、小学生から大学生までの出演者とその家族、そして関係者を含めた総員37名が、佐藤守廣団長、新目登喜美事務局代表引率の元に来米した。指揮者渡部昌之先生、ピアノ伴奏斎藤寛美先生。

下記の URL は佐藤守廣団長による「フクシマから ありがとう！」コンサートについての感想文です。

<http://www.NikkeiChorus.org/PDFfile/minihistory/arigato.pdf>

この演奏会の関係団体は以下の通り：

主催：センテナリー合同メソジスト教会

協賛：南加日系合唱連盟、南加福島県人会

後援：在ロサンゼルス日本国総領事館、二世週実行委員会、fct 福島中央テレビ

福島から感謝の気持ちを表明するためのコンサートは、11日午後2時、LA ダウンタウンのセンテナリー合同メソジスト教会で、ホール満席の会衆300名を集めて開催された。入場料は無料。

さらに、この演奏会には LA 郡の消防隊が招待された。この消防隊が行った東日本大震災への緊急出動と復旧支援に対して、感謝の気持ちが少年少女合唱団より直接表明された。合わせて、演奏会への来訪者献金より消防隊救済団体へ \$ 2435 が寄贈された。

演奏会終了後、チャイナタウンにおいて交流晩餐会が開催され、出演者を含めて関係者200名近くが集まり、LA 郡消防隊員と少年少女を始め関係者一同が、一層の交流を深めた。

合唱連盟、福島県人会、県人会協議会は、この晩餐会費用を含めて、少年少女合唱団の LA 滞在中の金銭的なバックアップのため、義捐金、寄付金、計 \$ 4268 を集めた。

少年少女合唱団は、LA 到着日の10日、郡山市代表として、市庁舎を公式に表敬訪問したのをかわきりに、11日の演奏会直前には折りからの猛暑のなか、二世週七夕祭りの屋外ステージにも浴衣姿で出演した。

演奏会翌日12日も、ボイルハイツの敬老引退者ホームを訪れて歌で慰問した。さらに夕方には、二世週パレードの一団として、二世週実行委員会が用意した2頭だての馬車に乗って、小東京の中心街を、歌を披露しながらパレードした。

帰国前日の13日、子供たちは初めて公式行事から開放されて、終日ディズニーランドでの休日を楽しんだ。

レッドロックキャニオン・ラスベガス 2泊3日のバス旅行：

5月21～23日、メモリアルデー休日を利用して、連盟主催のバス旅行を実施した。参加者は連盟家族を含む関係者45名。宿泊はオールドラスベガスの D Las Vegas Hotel.

第一日目の夜は、ホテルの会議室を借り切り、勉強会を含む懇親会を開催した。

この旅行は、2度に亘る事前の現地調査などを含め、計画から実施に至るまでの全ての面で、嶺井猛事務局長による献身的なお世話で実現した。

(10) 2013年活動

今後の演奏会計画など：

昨年11月18日に開催された理事会において、本年10月19日にはトーレンスのルーテル教会においてミニコンサートを、さらに2014年秋には第5回合唱祭を開催する計画が話し合われた。

Le Chanter の入会：

3月3日に行われた理事会において、混声合唱団 Le Chanter の入会が承認された。

連盟ロゴマークの作成：

さらに、今年から本格的に運用を開始したホームページの充実、連盟ロゴマークの決定など、より一層の連盟基盤を固める作業を続けている。これら極めて専門的な知識を必要とする作業は、連盟のIT部が中心となって行っている。中でも、連盟員に対して自らコンピューター講座を開催するなどの労をとって居られる豊嶋輝三グループ長に負うところが大きい。

「Love To Nippon 2013」への協賛：

3月10日、LAダウンタウンのLAPD本部において実施された「Love To Nippon 2013 鎮魂・追悼集会」に、合唱連盟も協賛団体として参画した。当日は家族も含めて連盟より13名がボランティアとして参加した。このプロジェクトは昨年より始まり、今年も含めて10年に亘って続けられる予定の息の長いものである。連盟としても、今後いろいろな形で参画していく予定である。

終わりに：

創立7年を経過した合唱連盟ですが、小史の作成を通じて改めてその活動を振り返って見ました。

合唱連盟は合唱祭の開催を最も重要な柱として、その他いろいろなプロジェクトに取り組んで来ました。歴代会長の力強いリーダーシップと、それを支えてきた理事会をはじめ、所属する各合唱団メンバーとその関係者の時宜を得た働きがあって、初めて実現出来たことと言えます。

演奏会を中心に、いろいろなプロジェクトを実現するに当たっては、「実施する時期にあって、それを出来る人が、何の見返りも求めずに、率先して参加し実行する」というボランティア精神と、それを推し進めるチームワークが、連盟の組織の中に、文化として立派に根付いていることが確認出来ます。

しかし、わずか10年足らずとはいえ、環境はめまぐるしく変化しています。南加合唱界も、本文に述べたように、新しい合唱団が、第九演奏を契機に誕生したり、また、新しい形の演奏活動をする動きも定着して来ました。それは、あるプロジェクト（演奏会）に向かって、少数の提唱者が個人参加者を集め、演奏会に備えて練習の場を作り、演奏会が終わるとそのグループを解散するというような、あたかも一般企業におけるプロジェクトチームのような活動形式です。また、一人の人が複数のグループにまたがって所属するという形も、散見されるように成って来ました。

これからの合唱連盟にとっては、このように多様化した南加合唱界と今後どのように係わっていくのかが問われます。設立時の基本理念たる「開かれた合唱連盟」を顧みながら、一人ひとりが、改めて考える時期にきていると言えます。

今年から本格的に始まったホームページの拡充など、新しい Tool を駆使した活動も、これからの多様化した合唱界にあっては、ますます必要不可欠なものとなって来ることでしょう。

以上

南加日系合唱連盟
小史編纂委員会

南加日系合唱連盟加盟団体（2013年9月30日現在）

合唱団	結成
さくらコーラス（女声）	1982年
森の会（女声）	1984年
コスモス（女声）	1998年
LA メンズグリークラブ（男声）	1999年
カペラオーパス（混声）	2008年
Le Chanter（混声）	2013年